北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会　http://miyazawa-lane.com/

事務局たより

第 23 号　2018 年 5 月 8 日　chyda-kr@f8.dion.ne.jp
◇事務局　101-0061 千代田区神田三崎町 2-19-8　杉山ビル 2F
千代田区労協気付　T:03-3264-2905 F:03-6272-5263

5.3憲法集会 2018　6万人が結集！

時折メイストーム突風が襲う海辺の臨海広域防災公園。「９条改憲 NO！平和といのちと人権を－5.３憲法集会」には６万人が結集。北大 OB の伊藤陽一・セツさん夫妻、山口幸夫さん一行と新聞 OB と合流した事務局の 2 本の幟を立てて参加しました（写真下）。

今、何よりも問われなければならないのは、安倍首相に憲法を語る、ましては改正を提案する資格があるのかーーです。安倍首相は一度として、「国政は国民の厳粛な信託によるもの」（憲法前文）との自覚・態度を示したことがあったでしょうか。嘘・隠蔽・改竄・卑怯の安倍首相とそれに無批判に従う与党と政権幹部、忖度する官僚に、絶対に国政を託してはならないと考えます。

集会では、主催者代表に続いて、落合恵子さんらが安倍政権を倒す出発点にと訴え、各政党代表が決意表明しました。「安倍９条改憲ＮＯ！　憲法を生かす全国統一署名」が、1350 万を突破したと報告されました。連休明け、安倍暴走政権との対決が正念場です。「負けてたまるか！」の思いを新たにしました。　（福島　清）

＊写真は、河合良一さん（日経 OB）提供です。

植村隆さん名誉回復裁判（東京）9月5日に証人尋問

植村隆・元朝日新聞記者が西岡力氏と文藝春秋社を名誉毀損で訴えた東京訴訟の第 12 回口頭弁論は 4 月 25 日 15:30 から東京地裁 103 号法廷で開かれました。植村弁護団は、金学順さんが「強制的に連行された」と語った証拠を探し出して提出し、被告側が「捏造だ」と主張している根拠が崩れていると指摘しました。

この日は吉村功志弁護士が、準備書面をもとに金学順さんの発言を裏付ける証拠として以下の 4 点の骨子を読み上げました。

❶1991 年 8 月 14 日にソウル市で行った記者会見を報じた韓国ＫＢＳテレビのニュース映像で、金さんが「強制的に」「逃げ出したら捕まって離してくれない」などと語っている,

❷その記者会見に出席した韓国紙ハンギョレの元記者金ミギョン氏は「金学順さんは会見で自己の経歴を示す言葉として『挺身隊』という言葉を使用しました」と述べている.

❸同じく韓国紙東亜日報の元記者李英伊氏は「当時、金学順さんが記者会見で『挺身隊』という言葉を使ったのは間違いない」と証言している。また当時の韓国では「挺身隊」と「慰安婦」は一般的には同じ意味の言葉として使われており、自らも「挺身隊」という言葉は「従軍慰安婦」の意味だと思って使っていたと証言している,

❹北海道新聞元記者の喜多義憲氏は、1991 年 8 月 15 日付北海道新聞朝刊社会面記事で、金学順さんのことを「戦前、女子挺（てい）身隊の美名のもとに従軍慰安婦として戦地で日本軍将兵たちに凌辱されたソウルに住む韓国人女性」と紹介している。

以上の指摘から、当時、金学順さんが自分自身のことを指して、従軍慰安婦という意味で「挺身隊」であったと述べていたこと、また金学順さん自身が、当時、強制連行されたとの事実を述べていたことも明らかになりました。この結果、植村さんが 1991 年 8 月 11 日付の記事で「『女子挺（てい）身隊』の名で戦場に連行され、日本軍人相手に売春行為を強いられた『朝鮮人従軍慰安婦』」との記述は、金学順さん自身が述べた経歴を記事の前文として簡潔にまとめた記述ということになります。

植村さんが、「金学順さんの述べていない経歴を付加したこと」、との被告らの抗弁は成り立たないことが明白となりました。

次回９月５日は、10：30 から正午まで竹中明洋・週刊文春記者の証人尋問、13：30 から 16：30 まで植村隆、西岡両氏の順で本人尋問が行われる予定。

櫻井よしこ氏の「捏造」明らかに　札幌訴訟報告

裁判の後、参議院議員会館で報告集会が開かれました＝写真。最初に神原元弁護士が、東京訴訟は「年内には結審し、来春には判決か」と見通しを語りました。

続いて３月 23 日の札幌訴訟第 11 回口頭弁論を傍聴したジャーナリストの安田浩一氏と札幌弁護団事務局長の小野寺信勝弁護士が「櫻井よしこ氏が認めた自らの謝り」と題して、対談形式で報告しました。

小野寺弁護士は「この日の裁判ではふたつの大きな成果があった。ひとつは櫻井よしこ氏に間違った記事の訂正を約束させたこと。もうひとつは、ネット世論が変わったこと。ネットで植村、櫻井のキーワード検索をすると、その９割が櫻井氏がウソを書いていた、などと出るようになった」と報告しました。札幌訴訟は７月６日結審し、９月から 11 月に判決となる見通しとのことです。（「事務局たより」第 22 号の札幌訴訟傍聴記・報告集会記事参照）

フリージャーナリストの安田浩一氏は、「差別する側には立たない」ことを記者としての原点として、外国人実習生に対する不当差別告発などの報道に当たってきた立場から、植村さんに対する攻撃や、韓国・朝鮮人に対するヘイトデモを許容する社会であってはならないと早口で迫力ある問題提起をしました。

最後に植村さんは、「緊張したけれど、金学順さんの言葉と思いを胸に刻んで臨んだ。相手側弁護士は悪意に満ちていて私のことをズサンなどと言ったが、きちんと反論し、抗議した。裁判長も私の発言を制止しなかったことが印象的だった」と語りました。

札幌・東京とも、植村さんに対する名誉毀損攻撃の不当性がますます明らかになってきています。引き続き完全勝訴まで裁判傍聴と事件の真相を広める活動を継続していきたいと思います。　　（福島　清）

「権力が隠すことを明るみに出すこと」がジャーナリストの使命

望月衣塑子・東京新聞記者講演会

市民がつくる、市民のための場　NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」2018 年前期講座・記者たちへの熱教室が、4 月 30 日、道新プラザで開かれ、望月衣塑子東京新聞社会部記者が「進む政治への私物化　瓦解する官僚たちーーなぜ、菅長官の会見に臨み続けるのか」と題して講演しました。会場には大学生のほか一般市民が多数詰めかけ、立ち見で聴き入る聴衆で熱気ある講演会でした。

望月さんは「記者として私のテーマは、権力側が隠そうとすることを明るみに出すこと」であり、取材で感じていることは「記者会見の発表は、当局に都合のいい事実」「不都合な真実は隠したい」「キーマンをみつけ何度も聞く」「嘘をつかれて当たり前」「隠すことにすべての関係者が納得しているわけではない」「だんだんと嘘と真実の見分けがつくように」なると述べていました。講演主旨は以下の通りです。

２人の子どもの産休・育休を経たのち、武器輸出をテーマに取り組んだ。妨害やプレッシャーにさらされながらも取材し 2016 年には『武器輸出と日本企業』『武器輸出大国ニッポンでいいのか』と題した武器輸出問題を提起する本を２冊刊行した。

朝日新聞の２月９日地朝刊のスクープから始まった「森友学園への国有地売却問題」では、朝日に続けと各社が一斉に報道。東京新聞の反応は薄く、共同通信の記事を配信するのみであった。そこで編集局長に「東京新聞でも追うべきです」と直接メール。その甲斐あってか東京新聞の政治部記者を中心に結成された森友問題取材チームの一員に加わった。「森友 14 文書改ざん」「首相・昭恵氏削除」「民主主義の根幹ゆらぐ」と１面で大々的に報道するにいたった。

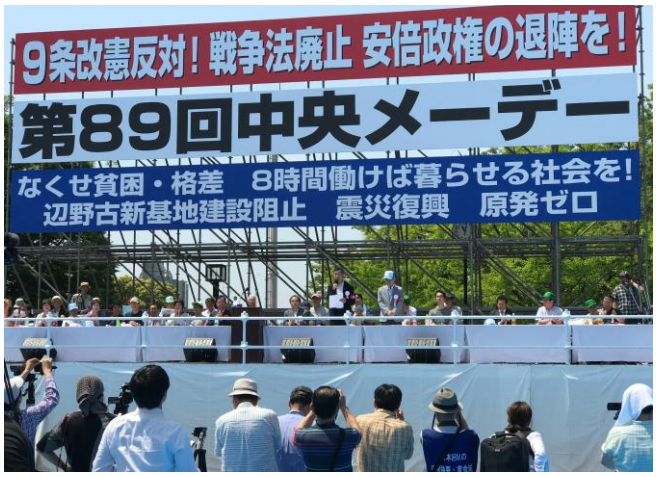
森友・加計問題の矛盾拡大で推移し、証人喚問された佐川元理財局長の 55 回にわたる「答弁を控える」などは真相を隠蔽する最たるものであった。

６月６日、初めて官房長官会見に出た。会見に出席できるのは政治部だが、部長に出席要請したところ「良いよ。キャップだけには言っておいてな」ということで様子見のつもりだったが、黙っていられず「東京新聞の望月です。前川さんの行動確認をしているのか。官房長官もそういうところ（出会い系バー）に足を運んでみてはどうか」と夢中で手をあげていた。２回目の会見は６月８日。準強姦事件での質疑応答。数度のやりとりの結果、翌日に文書「再調査」が決定した。

メディアは権力とどう向き合うべきか。読売新聞５月３日朝刊一面の「９条加憲」首相の私見、初報道。「釜山総領事の森本康敬氏、記者メモで更迭」「メディアトップと安倍首相との会食」などは大問題だ。

小柄な身体ながら、早口で次々と話し続ける迫力に圧倒される感じでしたが、メディアの役割を正し、会社に来た脅迫電話に臆することなくジャーナリストの本道を歩んでいくとの姿勢を、ぜひ持ち続けて欲しいと思いました。　（根岸正和）

****



５月１日、東京代々木公園で開かれた第 89 回中央メーデーに、新聞ＯＢのみなさんと一緒に参加しました。「しんぶん赤旗」は、全国 307 個所で 15 万人が参加し、中央メーデー参加者は 28000 人と報じていいます。東京では全労協が日比谷で別のメーデー集会を開催しました。一方、連合は４月 28 日にメーデー集会を開き４万人が参加したと報道されています。

政府が開会中の国会で「働かせ方改悪」法案を成立させようとしている今、メーデーはこれでよいのかと

考えざるを得ません。なぜ労働組合とナショナルセンターは団結できないのでしょうか。

中央メーデー実行委員会・全労協のメーデースローガンは「８時間働けば暮らせる社会を」、連合は「平和・人権を守り、あらゆる差別をなくそう　働く者のための働き方改革をすすめ、すべての仲間と結集しよう」とあります。すくなくとも政府の「働かせ方改悪」には反対できる一致点があると思います。

千代田区労協事務局長の水久保文明さんに聞くと、全労連と連合との間には、なかなか難しい問題があるとのこと。それでも一点共闘が模索されたが、それも持続していないとのことです。

「働かせ方改悪」が強行されようとしている今、労働組合とナショナルセンターは何としても団結してこの悪法成立を阻止すべきです。メーデーの青空の下でそんなこと考えていました。　（福島　清）

「総資料総目録」制作費カンパ

ご協力、ありがとうございます

（第 22 号つづき）吉田万三、梁田政方、古里洋聿、上野祥子、福島徳二、国吉昌晴、金子勝、田村徳章、戸塚章介、赤川博敏、佐藤稔明、梶田博昭、石崎博志、木村武晴、斉藤哲成、宍戸迪武、林田英明

（2018 年 5 月 5 日現在・順不同・敬称略）

＜会員からのおたより＞

憲法が分からない櫻井よしこ氏

「事務局たより」第 22 号、送信して頂き有難うございます。配信メールにあった週刊金曜日（3 月 30 日）の記事（注＝朝日新聞ＯＢの田岡俊次さんが「野党とメディアは犯罪性を追及すべきだ　公文書偽造と行使は騒乱首謀者並みの犯罪である」と指摘している記事）、全く同じ思いです。

櫻井よしこ氏のようなデタラメを言い触らす人を、なぜ一部テレビ局が、解説番組にゲストとして招くのか。なぜ「評論家」と称して色々尤もらしい事を人に教えるような口調で話すのか。前々より疑問に思っていました。

改憲論についても、「近代憲法とは何か」という憲法学のイロハが分かっていない。櫻井氏は、まともな憲法学の本を読んだことがないのだと思っていましたが、22 号の植村隆・名誉毀損札幌訴訟の記事によって、歴史についてもムチャクチャを言う人であることが、今回、分かりました。

私は 80 歳の筋無力の難病で寝たきり生活ですが、（幸いパソコンは人差し指で辛うじて叩くことが出来ます）こんなデタラメや無責任が罷り通る世の中が、是正されるのを見届ける迄は死んでもしにきれません。いつも、「事務局たより」を拝見して、仲間の皆さんのご活動に敬意を表し、且つ励まされています。有難うございます。先ずはお礼まで。　　坂東行和

（坂東さんは、元四日市大学教授。「ハンガリー手帳―ドナウ川牧歌紀行」「イギリス議会主権―その法的思考」などの著書がある。現在、軽井沢町で闘病中）

【事務局から】2014 年 4 月 30 日、本会のホームページを開設しました。2015 年 1 月から 2018 年 3 月までの月別アクセスデータは右表の通り月平均 200 件です。アクセスしてどこを見たかを示すページビューデータは 2 倍以上です。戦争法反対闘争が展開された 2015 年は 400 件にのぼっています。今後も宮澤・レーン・スパイ冤罪事件の真相を広める立場から「事務局たより」をはじめ情報発信を継続する予定です。（福島　清）

＜コラム＞　冤罪忘れるな！㉓

軍機保護法の罠解明

元新聞記者で作家・千田夏光

宮澤・レーン・スパイ冤罪事件に直接かかわってはいないが、冤罪の元凶・軍機保護法に鋭い洞察と解明を加え、罠を暴く論考を著している。軍・国家の意図と実際の適用、そして検閲という凶器を用いて新聞をいかに戦争遂行の媒体に組み敷いたかなど、極めて分かりよい。収録は『一億人の昭和史⑩』（毎日新聞社刊）。この分野で他に例のない古典文献となっている。

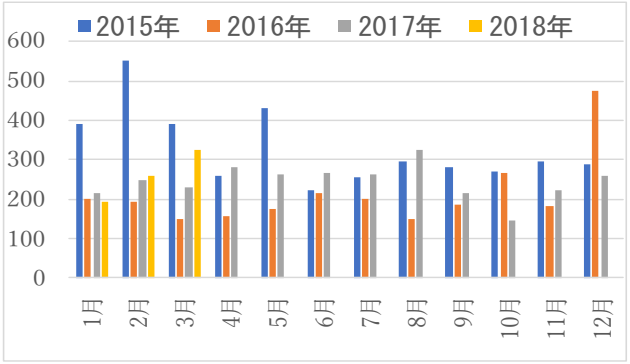
「一億人の昭和史⑩不許可写真史」（１９７７年・毎日新聞社刊）に掲載された「日本軍国主義時代における検閲の思想と流れ」と題した千田夏光さんの論考

千田は 1924 年 8 月、旧満州（中国東北部）の生まれで本名・貞晴。日本大学・社会学科中退、毎日新聞記者。一貫して弱者、被害者の視座から戦争、暴力、貧困をとらえ加害者を告発。『従軍慰安婦悲史』『禁じられた戦記』『未婚の母』『死者の告発』『性的非行』『死肉兵の告白』『皇軍“阿片”謀略』『精薄児の書いたラブレター』『天皇と勅語と昭和史』『オンナたちの慟哭』など。著作の数々に、その深さ広さが現れている。

♦　　♦　　♦

「スパイ冤罪事件」の真相に迫る決定版（本会編）

『引き裂かれた青春―戦争と国家秘密』花伝社刊

第 1 部＝冤罪の真相、第 2 部＝冤罪事実の条条検証　資料編＝判決全文、軍機保護法全文、年表
特別添付＝重要事項索引（別冊）

申し込みは FAX・メールで本会事務局まで（1 面上部題字横に掲載）。送料税込み 2300 円。後払い。